

記者発表（配付）資料

平成 22 年 5 月 11 日

所属部課	館 長	副 館 長	担当	連絡先
総合政策部 萩博物館	高木正熙	樋口尚樹	樋口尚樹	25-6447

件 名	萩博物館屋外展示場『石の ^{こみち} 小径』オープンについて
-----	---

このたび、萩博物館東門右手に古代寺院の塔の礎石、明治時代の煉瓦造りの公衆便所、火山弾、貝化石など石に関連した屋外展示のコーナーを整備し、『石の小径』と名づけました。オープニングセレモニーと、一般向け展示説明会を実施します。

■オープニングセレモニー

1. 日 時 : 5 月 25 日（火）9 時 30 分～（15 分程度） 終了後に説明会
2. 会 場 : 萩博物館東門横隅櫓前
（山口県萩市堀内 355 TEL0838-25-6447）

■展示説明会

1. 日 時 : 5 月 25 日（火）13 時 30 分～14 時 30 分
2. 会 場 : 萩博物館屋外展示場および常設展示室
3. 内 容 : 屋外に新たに設置した展示物の解説と常設展示室内の関連展示の解説
4. 参 加 費 : 無料（ただし、観覧料が必要です）
5. 定 員 : 30 人（当日受付、先着順）

萩博物館屋外展示場「石の小径（こみち）」

1. 経緯

萩市立図書館前にあった旧萩市郷土博物館屋外展示場の石造物等を今年 1 月に萩博物館へ移転し、「石の小径（こみち）」と名づけ萩博物館の屋外展示場とした。石に関する資料 22 点を展示している。このたび 22 点の説明看板を設置し、5 月 25 日（火）午前 9 時 30 分から展示場のオープニングセレモニーを行う。

2. 主な展示物

おおいおおでら そせき 大井大寺の礎石

はくほう しょうわ おおいがわ
白鳳時代（7 世紀後半）の寺院の塔の礎石。昭和 45 年（1970）萩市大井の大井川の
川底から発見された。大井大寺は、あぶぐん あぶちよう あとう
阿武郡（現在の萩市・阿武町・山口市阿東）
うじでら
一帯を支配していた豪族の氏寺であった。

こうせつえん さんせきぐみ 香雪園の三石組

めいじ ふじたでんさぶろう みなみかたかわまち
明治時代の実業家藤田伝三郎（1841～1912 年）の誕生地である南片河町の香雪
園にあった庭石。伝三郎はふじたぐみ こさかこうざん
藤田組を設立し、鉱山業を中心に小坂鉱山などを経営、
関西財界の指導者として活躍した。

めいじじだい こうしゅうべんじょ 明治時代の公衆便所

あかれんが
明治 36 年（1903）ごろ萩の各所に設置された。赤煉瓦づくりで、当時としては全
国的にも珍しい公衆便所であった。

けいあんばし おやばしら じょうとうばし おやばしら さいかばし おやばしら 慶安橋の親柱・城東橋の親柱・彩花橋の親柱

しんぼりがわ じょうきょう
萩城下の新堀川に架けられた石橋の親柱。新堀川は、貞享 4 年（1687）に開削
された人工の水路。

しみずけしもやしき いどがわ 清水家下屋敷の井戸側

はぎはんよりぐみし こくだか きりぐち つばき
萩藩寄組士清水家（石高3, 700 石余）の霧口（萩市 椿）の下屋敷にあった井戸
側。文化5 年（1808）に難波伝兵衛他 4 人の清水家の家臣たちが献上したもの。
清水家は、はしばひでよし びつちゅうたかまつじょう じじん しみずむねはる まつえい
羽柴秀吉による 備 中 高松城の水攻めで自刃した清水宗治の末裔。

めいじじだい どうひょう 明治時代の道 標

とくし かとくとみあさじろう ひ や こいしやちよう たまち
明治 31 年（1898）に萩の篤志家徳富浅次郎が建てたもの。「東、平安古石屋丁・田町
みち たまえ さんみ おおつみち うらたまえみち
道」「西、玉江・三見・大津道」「北、かしばた（河岸端）・浦玉江道」と彫られて
いる。

はぎじょうかごうしょう いどがわ みずた なが だい 萩城下豪 商の井戸側・水溜め・流し台

がわらまち なりみち さんきんこうたい すみなが け
萩城下瓦 町のお成道（参勤交代に使われた道）沿いに位置した豪商、住永家の屋
敷にあったもの。

かざんだん 火山弾

山口大学理学部寄贈

あ ぶ かざんぐん い ら お かざん
山口県北西部に分布している阿武火山群の一つ、伊良尾火山の噴火（約 30～40 万
年前）で放出されたもの。火山弾は噴火口から空高く噴き上げられたマグマのし
ぶきが、空中で回転しながら固まったもの。

なべしま かいかせき 鍋島の貝化石

ほうほくちようかんだ
下関市豊北町神田の鍋島で発見された、約 2, 500～3, 000 万年前の貝化石。二
枚貝 9 種。巻貝 6 種。